

## 事業をモニターした県民会議委員の感想・意見

### まさめ 真覚委員（公募委員）

森林整備の行われた現場を見学しましたが、その準備段階では市が中心となって水源林向上に向けて地主の理解を取り付け、事業協約を締結し、業者に委託していく展開に多大な労力が注がれていることがよく分かりました。

### 片山委員（関係団体代表）

秦野市が立案した計画は実に遠大で、その実現にかける意気込みには敬意を感じます。また、ボランティア団体の育成にも努め、水源林整備の必要性を熱心にPRしていると感じました。

不法投棄防止のためには、林道への一般車両の進入は禁止すべしと考えます。

### 増田委員（関係団体代表）

現場に行くのに少し登っただけで息が切れるほどでした。今回の見学を通じて森林整備、水源地保全のための人力の重要さと大変さを知り、若い担い手をどう確保していくかが最優先課題だと実感しました。

### 吉村委員（公募委員）

雑木林の経済的な価値がなくなったことが、ボランティアの入りきりかけとなっています。里山の整備の内容や目的を整理して、新しい価値を見つけて共有していかないと、関わる人々の意向がバラバラになってしまったり、モチベーションを保てなくなったりするのではないのでしょうか。

### 倉橋委員（関係団体代表）

見学した場所は林道にも市街地にも近いので、生産材を出荷する条件は他の場所に比べると大変有利であると思われれます。間伐材の素材利用という側面も含めて頑張って欲しいと思いました。

### このひら 木平委員（東京農工大学名誉教授）

秦野市における水源林整備の目的は保水力が大きく水源機能が高い森を作ることであり、その結果が、良質で安定した量の地下水が得られることに通じます。森林の手入れの方法は色々考えられますが、その場所と特性と、所有者の意向に合致する具体的なプランを専門的な知識を活用して示すことが行政、専門家に期待されています。

## 全体のまとめ

### 坂本委員（公募委員）

秦野市が推進している山林整備と、もう一方では里山整備のステージを用意しボランティア団体の参画、育成を進展させている里山整備の計画がよく理解できました。整備された里山には

エビネが花を咲かせ、夏にはカブトムシ、クワガタが姿を見せるとのことでした。市民の生きがいと環境向上につながり、理想的な展開となっていました。

水源環境保全・再生かながわ県民会議コミュニケーションチーム  
神奈川県政策部土地水資源対策課計画調整班  
横浜市中区日本大通1 TEL (045) 210-3106 (直通)

# 里山整備に注ぐパワーはすごい

水源環境保全税を活用した事業を森チームがモニターしてきました。

秦野市は秦野盆地に地下水3億トンの水を蓄え、秦野市の水道の7割を地下水でまかなっているという特色ある地域です。

地域水源林（里山）整備事業としては、平成16年度からスタートしたボランティア団体による整備箇所と、秦野市によるプロの山林業者が手がける整備箇所とに区別して展開しています。

今回は、両方の整備箇所について事業モニターを実施しました。ボランティアの里山整備では、秦野市が積極的に森林所有者とボランティアの連携を図り、所有者の理解を促し、整備箇所を順次広げています。

今後は、秦野市で開催が予定されている全国植樹祭に向けた市民の機運の高まりも期待できると思われました。

## <モニター事業の概要>

- かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画での位置付け  
特別対策事業5「地域水源林整備の支援」
- モニター事業及びモニター箇所
  - ①里山ふれあいの森づくり事業（秦野市羽根）
  - ②ふるさと里山整備事業（秦野市羽根）



【秦野市羽根】



※水源環境保全・再生かながわ県民会議とは、水源環境保全税を使って行う施策に県民意見を反映させるために県が設置した組織です。一般県民・学識者など30名からなり、市民団体への支援や県民フォーラムの開催などを実施しています。このニュースレターは、委員が森チームと水チームを組織し、チームごとに現地に行き、県民の目線で事業をモニターした結果を、同じく委員で組織するコミュニケーションチームがまとめたものです。



# ボランティア団体が活躍する里山整備

～23団体が頑張っています～

## 里山ふれあいの森づくり事業

【場所】 秦野市内23箇所

【概要】 平成15年度の里山林保全調査結果を基に、地域水源林の手入れに必要な里山林を対象にして、秦野市・地主・ボランティア団体の3者間で協定を締結し、秦野市が森林整備を行うボランティア団体に対して補助金を交付して実施する。

(平成19年度森林整備面積25.88ha)

【事業費】 (平成19年度)  
3,436千円



## Q&A (Question & Answer)

**Q.01** 切り出された木々は有効活用されていますか？

**A.01** チップにして表丹沢野外活動センターでの燃料として使っています。また、しいたけのホダ木を製作している団体もあります。

**Q.02** 森林美化と水源確保のための整備の仕方とは必ずしも一致しないという問題がありますが、里山整備をどう展開していくのですか？

**A.02** どちらか一方に結論づけることは難しい問題です。どう整備していくかは地主の意向もあり、里山の維持そのものにポイントを置いています。



ボランティアの手で整備された雑木林



ボランティアの方へのヒアリング



複数団体が活動中の雑木林を歩く



秦野市職員による説明

# 秦野市が推進する森林整備

～民間所有林にも下草刈り、枝打ち、間伐等の整備に取りかかっています～

## ふるさと里山整備事業

【場所】 秦野市羽根、東田原、弘法山、横野

【概要】 平成15年度の里山林保全調査結果を基に、地域水源林の手入れに必要な私有林、組合有林等を対象にして、秦野市と森林所有者が事業協約書を締結し、秦野市が森林整備を実施する。

(平成19年度森林整備面積31.52ha)

【事業費】 (平成19年度)  
44,114千円



## Q&A (Question & Answer)

**Q.01** 森林整備面積を増やすために何が重要ですか。

**A.01** 森林所有者の協力が欠かせませんので、森林整備の必要性について繰り返し訴えています。

**Q.02** 間伐材の利用は進んでいますか？

**A.02** チップにして表丹沢野外活動センターでの燃料として使っているほか、各公共施設や学校に利用を呼びかけ、木柵や土留めとして活用しています。



市によって整備された森林



秦野市職員による説明

## ※特別対策事業

特別対策事業12事業のうち、評価・検証事業を除いた9事業について、順次モニターを実施しています。

- 1 水源の森林づくり事業の推進
- 2 丹沢大山の保全・再生対策
- 3 溪畔林整備事業
- 4 間伐材の搬出促進
- ⑤ 地域水源林整備の支援
- 6 河川・水路における自然浄化対策の推進
- 7 地下水保全対策の推進
- 8 県内ダム集水域における公共下水道の整備促進
- 9 県内ダム集水域における合併処理浄化槽の整備促進

(○印は今回モニターした事業)

## 個人県民税の超過課税による水源環境保全・再生への取組み

個人県民税は、平成19年度から超過課税を実施し、納税者一人当たり平均して年額約950円をご負担いただいています。これによって、森林の保全・再生のほか、河川や地下水の保全・再生、ダム集水域での生活排水対策など「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」(計画期間：平成19年度～23年度、事業費約190億円)に位置付けた12の特別対策事業※を推進しています。